

全鉄連情報

平成20年9月11日刊

[第66号]

目次

P1 加盟団体報告

P3 企業消息

P1～2 鉄鋼課連絡会報告

P3 会員入退会

P2 常任理事会報告

P4 業況アンケート結果

P2～3 鉄流懇報告

全国鉄鋼販売業連合会広報委員会主管

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館6F ☎03-3808-2350 FAX03-3808-2358

加盟団体報告

(平成20年7月1日
～8月31日)

旭川で交流会、今回で21回目

△北海道鋼友会 (今井國雄会長)

△東北鉄鋼販売業連合会 (齋藤芳郎会長)

7月15日(火)旭川市で第21回交流会を開催した今井会長と齋藤会長は、価格上昇の一方で需要が減少し事業環境は厳しさを増すと警戒していた。全鉄連の林会長は「旭川は初めて訪れた」と前置きし「九州、大阪、名古屋、東京など各地で建設関連の倒産が多発。与信問題は我々にとって最重要課題である。ミルシートの管理はコストが掛かることではあるが、厳格に対処すべきであると認識している」と挨拶を述べていた。この交流会に10年連続参加している全鉄連前会長の大川宏之氏は「鉄鋼のステージが変わり、我々はそのなかで商売をしていかなければならない。経営は一層きびしくなるが、何をすべきか考える時であると、受け取っている。よい社員がいるよい会社にしてほしい」と激励の言葉を述べていた。その後、市場動向などについて現状を報告し、意見を交換した。また、ミルシート管理については「専従者を置いて管理し、切板のトレーサビリティを確保している」「ミルシート発行の履歴管理をまだ行っていないので、社内許可制にしてデータを記録しておく。倉出しから販売したものをどう管理するかが問題だ」などの現況説明がなされていた。

神鋼鋼板加工が初優勝

△東京鉄鋼販売業連合会 (西村達夫会長)

7月13日(日)浦安鉄鋼団地内「清水球場」で全国シャリング工業組合との合同による第3回親睦野球大会(東鉄連としては24回目)の準決勝、決勝が行われたこの野球大会、19年秋より実施されていたが天候不順と清水球場改修により、この日まで順延されていた。準決勝は村山鋼材対神鋼鋼板加工、野村鋼機対ヤマナカの対戦となり、結果はつぎのとおり。

村山	1	0	0	0	0	0	0	1
神鋼	0	1	2	0	1	0	×	4

野村	0	2	1	0	0	0	0	3
ヤマナカ	0	0	0	0	0	0	0	0

決勝戦の野村鋼機対神鋼鋼板加工は、1回裏無死2、3塁のチャンスにタイムリーヒットで神鋼が2点先取。4回までノーヒットで抑えられていた野村は、内野安打

で出て、盗塁で2塁まで進塁した走者を置いてホームランが飛び出し、同点とした。ところがその裏、神鋼は1死1塁からのツーランホームランで突き放し、後続を絶ち勝利した。

野村	0	0	0	0	2	0	0	2
神鋼	2	0	0	0	2	0	×	4

なお、個人賞はつぎのとおり。

最優秀選手賞 八戸良太(神鋼・2塁手)
優秀選手賞 君塚 裕(野村・捕手)
敢闘選手賞 渡邊聡治(村山・3塁手)
同 寺内一泰(ヤマナカ・1塁手)

坂幸英氏(東洋鋼鉄)本因坊クラス優勝

8月2日(土)鉄鋼新聞社との共催による第41回東鉄連親睦囲碁大会が中央区湊の京橋鉄友会事務所で開催された。参加者を段級位によって本因坊、Aクラス、Bクラスの3つに分け全3局で優勝を争った。高段位者が競う本因坊クラスでは坂幸英氏(東洋鋼鉄)が全勝で初優勝。Aクラスは小林堅次郎氏(栗山庄之助商店)Bクラスは吉川豪勇氏(芝浦シャリングOB)が共に3戦全勝で優勝した。今回、紅一点の参加者、横山千里さん(キョシゲ)はBクラスに出場。1勝2敗の成績だったが「勝ち負けに関係なく素直に囲碁を楽しむことができました。目上の方と囲碁を通じて交流する機会は普段あまりないので、大会に参加して本当に良かったです。来年もがんばりたい」と自社のブログで語っていた。「この3局だけでも彼女は上達していた」とは審判長を務めた小島高穂先生(日本棋院9段)の評であった。

歓談の輪が広がる親睦暑気払い

△福岡鉄鋼販売業組合 (鳥山昭理事長)

8月22日(金)福岡市内の「ホテル・イル・パラッツォ」で暑気払いを兼ねた親睦会を開催。開場は市内でも人気スポットとあって、若手の営業マンに交じって、各社の女性スタッフも多数参加していた。いつも以上に賑やかな親睦会となり、歓談の輪が広がった。席上、鳥山理事長は「過去を思い返すと、今よりはるかに厳しい状況のなかで生き残ってきている。みなさんと協調して共に頑張っていきたい」と挨拶していた。

関連会議報告

鉄鋼課連絡会

7月24日(木)

会場 鉄鋼会館804号室

出席 松濶・芳澤(経済省)林・木下(愛知)西村・山岸・佐藤・齋藤(東京)阪上(大阪)今井(新潟)

●全鉄連調べによる3地区12品種18サイズの平均市況は128,400円前月比+2,000円、前年同月比+40,400円。経済産業省より、工事請負契約書第25条第5項(単品スライド条項)の運用マニュアル(暫定版)について、とする資料が提出され、説明があった。

常任理事会

●全鉄連会員名簿に掲載する賛助広告の応募状況について事務局より報告があった。前回実績の半分程度の申込なので、働きかけをすることになった。

●第5回鉄鋼営業中堅社員研修講座を11月21日(金)浦安鉄鋼会館で開催することになっており、事務局より実施概要が出されたが、講義内容については今後さらに検討していくことになった。

●今年の3月から継続されて開催されている鋼材品質証明検討委員会の7月会合について報告があり、今後も同委員会に参画し、成り行きを注視していくこととした。

●現状、全鉄連情報をFAXで送信しているが、メールで配信することもできるので、そのニーズについてアンケート調査をすることになった。

第402回鉄流懇概要

荷動き停滞、値上げ転嫁進まず

●東鉄連からの概況報告(山岸・佐藤)
△鉄筋…ディベロッパーの倒産が多発していることからゼネコンにも波及することは見えているので売りに売れない。仕事はないが品物は下がらない、という状況であろう。

△平鋼…荷動きは相変わらず低調。小口中心でまとまった注文はない。3~5月の値上げが浸透し、急激に価格が上がっている。

△形鋼概況…6月は在庫横ばい、出庫微増、在庫微減。感覚的には悪くなっている。

△H形鋼…7月引受が相当カットされた。5月比2~3割のカットなので流通にとってはキツイ。需給均衡という感覚だが、実際には歯抜けが相当ある。

△一般形鋼…メーカーが契約残を早く消化させようとしている。チャンネルに歯抜けが多い。与信問題もあって転嫁が捗々しくない。

△C形鋼…売上不振で値上げに踏み込めない面がある。

△コラム…メーカー供給が極端に少ない。値上げが順調に浸透している。

△冷延…仲間とユーザーでは事情が異なるが、市中では物凄い勢いでコイルが動いた。秋口のことを考えて供給責任のあるコイルセンター、商社が買い込んだ。実需を見越した仮需と言えそうだが、めずらしい動きだった。

△表面処理…7月からのメーカー値上げであるが、3~4月にあったような仮需的な動きはない。利益を確保するため上げざるを得ない。また、更なる値上げの話が出ており、これ以上の値上げがあると商売して行けるのか心配になる。店売り・紐付きの価格差が拡大している。これはエンドユーザーでの価格差でもある。

△厚板耳付き、切板母材…7~9月についてメーカーの引受カットが厳しい。契約残の多いところほどカットされている。店売りを一番先に上げてカットするとはどういうことか。SN材は市中ではほとんど拾えなくなって

いる。

△中板・ホットコイル…在庫は減少している。7月に入って仮需の反動が本格的にきたのか引き合いが少ない
△編板…閑散とした状況で、更なる値上げを控えているが、まったく仮需の動きはない。切板も月を追って悪くなっている。毎月、工事リストをもらうが消えた物件があり、先が見えない。スポット物件で工場の稼働を確保したいが、思うようにいかない。

△厚板定尺…メーカーは価格を上げて量を絞る、ということで強気である。ユーザーでは大型物件に絡んで莫大な量が動いているが、特約店は係われない。地方はもっと悲惨である。地場特約店には在庫意欲がない。価格上昇中だが、荷動きは活発でない。

△鋼管概況…4月の値上げはわりとスムーズに転嫁できたが、7月からのメーカー値上げには苦慮している。高炉白ガス管やシームレスは転嫁が容易であったが、それ以外は通っていない。店売りに関しては玉を出して来ないので下期どうなるか心配である。

△高炉品…メーカーから買わなくても在庫があるためかタイト感がない。2次店や地方店では上がれば上がったで、その時の対応ということで割り切っている。自動車関連は9月以降増産となる。建材は厳しい状況が待っている。メーカーは引受カットを継続し、白ガス管は全然うけてくれない。関西方面の半導体工場建設は大幅に遅れている。ただ、物凄い量なので、近々、ガス管はタイトになるかもしれない。一方、末端は動きがなく、与信不安におののいている。価格は上がったが引掛かりと背中合わせの状態である。

市場に不安要因

●OSAからの概況報告(阪上)

6月販売は全体で前月比4%増、前年比4%減少であった。品種別では薄板、鋼管が前月比増加している。棒鋼は年初から悪く、7月になっても前年比マイナスが続いている。鋼管は前年並みの販売を維持している。ただシームレス、機械用鋼管は前年比プラスだが、構造用鋼管はマイナスで、2極化している。H形鋼、一般形鋼の在庫は増加している。市況であるが、コイル関連商品の転嫁はスムーズであるが、条鋼では滞っている。店売り・紐付きの価格差が更に拡大している。また、薄板紐付き材の還流品が散見される。建設向け需要が悪化している。海外マーケットでは半製品、一部品種の動向に変化が見られる。輸出に回されていたものが、国内に回されると需給が乱れる。

建設不況本番

●愛鉄連からの概況報告(木下)

7月に入ってから板関連の中板、酸洗の荷動きが悪くなっている。それら余剰となった品物は、なかなか表にはでないのだが、財務体質が強く販売力のある流通にはまってしまう。当地区においては5、6、7月とトヨタの設備増改築があったが、8月以降は中止となっている。東西でディベロッパーの倒産があり、北陸の地場有力ゼネコンの破綻と相次ぎ、これからが建設不況本番であると思う。与信管理が営業の一番の仕事になっている。

建設需要の落ち込み続く

●新潟からの概況報告(今井)

建築関連需要は昨年11月から10%前後の落ちこ

みが続き、現在もその基調を持ち越している。このような状況だと中小に仕事が回らない。関東ではマンション需要が落ち込み、その影響も出ている。ファブ、ゼネコンの与信をどう見ていくのか。先行き難しい局面である今後、固定費を賄っていただけても苦勞しそうだ。

世界的な金融不安の影響を懸念

●林会長（総括）

鉄鋼需給は均衡を維持していると思うが、与信不安長期化の懸念が出始めている。全国的にゼネコンや鉄骨加工業者の倒産が相次いでいる。これは実際に商売に携わる者にとっては不良債権をつかまされることを意味しており、大変深刻な事態となっている。サブプライム問題で景気が悪化している米国で政府系住宅金融会社2社に経営問題が生じ、支援が必要との財務長官記者会見が行われた。この動きをみると平成9年頃にあった日本の金融不安と同じようなことが起こっている。その影響もあってか日本でも金融機関がゼネコンに厳しい対応をとるようになってきている。新興国、資源国の需要拡大もあって鉄鋼需要は堅調であると考えられるが、世界的な金融不安から経済活動そのものが揺らいできた実感している。こうした状況下、メーカーにおいては国内の需給、鋼材価格に関して世界のマーケットを注視して慎重な対応をしていただきたい。

*この後、商社・メーカーから発言があった。なお、発言内容については別紙資料3-1、3-2を参照。

未だに残る改正建築基準法の影響

●経済産業省（松淵課長補佐）

店売りは全体的に低迷、停滞ムード一色であり、さらに悪くなるような印象を受けた。6月末に公表された国交省の建築着工統計を見ても一進一退、マイナス傾向が依然として続いている。昨年6月からの改正建築基準法施行による影響が未だに根強く残っている。さらには鋼材価格の高騰が建築需要に悪影響を及ぼしている。大手ゼネコンでは柱を鉄骨造から鉄筋コンクリート造に変えるといった工法を見直す動きもある。建築、特に中小物件については引き続き、慎重な見方をしていくべきだ。こうした需要不振などによる流通の売上減少で、資金繰りに苦慮する場面も想定される。東京商工リサーチによると6月の全国の倒産件数は1,324件（前年同月比11.7%増）。6月としては平成15年同月の1,381件以来、5年ぶりの1,300件超えで、そのうち建設業の倒産は6月389件、5月407件と前年に比べ高い水準にあり、改正建築基準法関連倒産が17件と5月の7件から増えているのが目につく。建築向け需要は一部の大型プロジェクトを除いて不振であり、特に中小物件では陰りが見られる。流通においては鋼材価格高騰に起因する資金需要の増大などが、経営を圧迫することになると危惧される。そして、今まで以上に与信管理の厳格化が望まれている。こうした状況下、鉄鋼課ではセーフティネット保証の対象業種として、既に追加指定のなされている鉄鋼関係3業種（鉄鋼卸売業、建設用金属製品製造業〔鉄骨製造業に限る〕、鉄鋼シャースリット業）について、6月30日までの指定期間を3ヶ月間延長し、9月30日までに指定期間の延長を行った。関係団体には既にご連絡し、ご周知頂いているところもあるが、こうした厳しい状況のなか、必要に応じて、本制度を適切にご活用頂きたいと考えている。

今後も伸びる鉄鋼需要

●小野会長

マクロの経済指標は悪い材料ばかり出ている。一方で鉄鋼需要は旺盛な状態が続いている。4～6月期の粗鋼生産は過去最高記録を更新するなど、アンバランスな状況にあると実感している。6月の日本の貿易統計は4年7カ月ぶりにマイナスとなり、好調を持続してきた製造業だが減速が懸念されるデーターが散見されるようになった。全鉄連各地区からの声にもある通り、肌で感じる市場の状況は決してよくない。全鉄連流動調査をみてもこの4～6月販売量が83万トンと記録的に悪くなっている。品種別の出回り状況でも製造業向け好調と言われた薄板系を中心に悪くなっている。確言はできないが、潮目が変わってかもしれないとの認識で物事を考え、先々に対処していく必要があるだろう。ただし、先々については悪い話ばかりではない。ある研究所のデーターによると、世界のGDPが平均2.5%以上伸びると鉄の需要は増加基調を維持するといわれている。現在の伸び率は年末年初で4.7～5.1%、足元でも3.9～4.1%と若干悪化傾向ではあるものの、また、短期的な調整はあるかもしれないが、鉄の需要は今後も伸びていくと思われる。

会員企業消息（平成20年7月1日～8月31日）

〔所在地・代表者変更など〕

○KSサミットスチール㈱（東鉄連・本所）～新代表者に北山武史氏が就任した。

○大野鋼管㈱（OSA）～所在地を大阪市西成区津守3-6-15に移転。電話番号06-6661-7774 FAX06-6661-7840に変更。

○西岡金属㈱（OSA）～所在地を大阪市西区立売堀6-7-51に移転、電話番号06-6660-2210 FAX06-6110-2377に変更。

○和信産業㈱（東鉄連・鋼板）～所在地を千葉市花見川区千種町41に移転、電話番号043-259-5511、FAX043-259-5490に変更。

会員入退会（平成20年7月1日～8月31日）

〔入会〕

*該当事項なし

〔退会〕

○東亜グラウト工業㈱（東鉄連・江戸川）

（了）

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について (2008年7月)

発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
発表項目	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	J F E 商事	日鐵商事
1. 需給動向(景況感)	大手向紐付けは堅調。溶接管は弱含みだが、母材コイルがタイトな為、在庫減少・引締め感あり。シームレス管は需要環境活発、且つ国内向け供給は数量が引続き絞られており、市況に引締め感あり。	5月末の薄板三品在庫は411万トンと前月比6.6万トン増加と2ヶ月連続で増加。過去10年間の平均では5月末在庫は4月末と比べ約12万トン増えており、また絶対量では417万トン程度。今年5月末在庫は増え幅、絶対量ともに平均より低い水準ではあるが適正水準とされる400万トンに比べ約11万トン多い。高炉各社のロールは依然としてタイトな状況。一方、マーケットは建設関連需要の減少に加え、仮需の反動もあり市中の荷動きは総じて弱く、足元の市況は横ばい様子見の状態。	造船及び建機は依然好調に推移しているが、中小建築需要低迷の影響からか、市中の荷動きは良くない。	[棒鋼]製品出荷減により地区メーカーは2/4四期に20~25%減産。同時に7月も販価引上げを表明。市況も依然大きな動意はないが基調に変化なし。 [形鋼]中小コアも上期一杯は受注確保するものの下期以降は非常に不透明。市中在庫は薄くメーカーの値上げと減産強化を受け市況は強基調継続。
2. 需要産業動向	自動車向・建産機向紐付きは足下堅調であるが、外需次第の不透明感あり。土木・建設分野は低迷状態継続。プラント向は小型定修案件のみ。	自動車など製造業は国内外の需要動向に先行き懸念が強まり、一部で生産調整もみられるが足元は総じて堅調に推移。5月の自動車生産台数は92.5万台(前年同月比+6.8%)となり、輸出(53万台:同+9.5%)を中心に好調を維持。一方、建築関連では5月の新設住宅着工戸数が前年同月比6.5%減少の9.1万戸と11ヶ月連続減少、また5月の非住宅着工床面積は前年同月比26.3%減少であったこともあり、前年同月比26.3%減少の526万㎡と店舗、工場、倉庫向けなどいずれも2桁の大幅減となった。	造船の5月末手持工事量は前月比0.6%増の6,666万GTで依然好調を維持している。建機は5月の出荷金額ベースで前年同月比で68ヶ月連続の増となり、増加比率が若干弱まっている。国内は2ヶ月連続で減となったが、輸出は74ヶ月連続の増を続けている。産機は5月の受注金額ベースで前年同月比5%程度減となった。建築は中小物件の需要低迷の影響を受け、市中の荷動きは良くない。	活況を呈していた首都圏でのマンションや再開発案件等にも金融収縮や不動産販売・収益の局面変化の影響による計画見直し等の傾向が散見。既に顕在化している中小物件の消滅・減少と合わせて建設需要の先行きに不透明感あり。また諸鋼材の急激な値上げによる資金需要増加は企業経営の圧迫要因となり、特に先行き需要が急減している地方の店売マーケットにおいて、今後益々厳しい環境になる懸念あり。
3. 輸出入動向	5月度の輸入はシームレス管・溶接管ともに前月比若干の減少。輸出は油井管・ラインパイプともに増加し、全体で前月比約20%増。	5月の薄板三品入着量は264千トンと前月比で6.0%(15千トン)増加した。品種別では熱延が前月比1千トン増加、冷延が17千トン増加、亜鉛メッキが3千トン減少した。前年同月比では5.7%(16千トン)減少しており、入着の絶対量は自体は増えていない。	5月の厚板通関実績は32,500tで前月比ほぼ横ばい。主に中国から17,400t、韓国から13,500tとなっている。岸壁在庫は22,000tで前月比7,000t増となった。	[棒鋼]鉄屑の海外市況軟化により海外製品市況も軟調傾向(\$60~\$70軟化)。製品の輸出处も足下、若干減。 [形鋼]輸出はPJ物件中心の為、海外の夏季要因(夏休)により7-8月期は引合少なくとも低水準の見込み。
4. 海外市場動向	油井管・ラインパイプともに商談は活発。特に油井管は、エネルギー開発需要が好調なため、7月~9月の引合は増加している。	主要市場である米国の需要不振が鮮明になってきており、特に自動車産業、住宅産業において顕著に現れてきている関係からホットコイルなどの市況が軟化してきている。また好調を維持していたBRICsなど新興国においても中国、ロシアなどで軟化が伝えられるなど、国際市場の先行きに不透明感が増ってきている。	需給逼迫、原料高を背景に国際相場の上昇基調は続く。	[棒鋼]中東、南米地区は依然として需要・価格とも高水準(中東向\$1500台、南米向\$1600台/Chf)。それ以外の欧米、アジア近隣諸国はスワップ価格軟化により製品価格も軟調傾向。
5. トピックス				11月施行の改正建築士法に懸念あり。同法は構造と設備の設計に携わる建築士に5年以上の実務経験と所定の講習受講を義務付けるもの。条件を満たす建築士不足等による業務停滞の可能性に懸念。

発表項目	電炉	
	ダイワスチール	高炉
発表者	日新製鋼	
1. 需給動向 (景況感)	<p>①08.3~08.5月のRCの着工面積 前年比 ▲2.2% 近畿 ▲2.3%</p> <p>08.5月のRCの着工面積 前年比 ▲1.9% 近畿 ▲4.9%</p> <p>②マンシヨンの着工数 08.3~5月 前年比 全国 ▲1.1%、首都圏 ▲1.1%</p> <p>近畿 ▲1.4%</p> <p>マンシヨンの新規契約率(速報) 08.5月 近畿 5.6%</p> <p>③08.5月の小橋メーカーの生産量 前年比 全国 ▲4.6% 関東 ▲8.7%</p> <p>関西 ▲8.0%</p>	<p>6月の日銀短観【大企業製造業の業況判断指数(DI)】は、原材料価格の高騰が響き、3四半期連続の悪化となるとともに03年9月以米の低水準となった。5月の鉱工業生産及び機械受注も、前月比では上昇したものの、4~6月期に関してはいずれも前期を下回る可能性が指摘されており、内外経済の先行き不透明感が強まっている。</p>
2. 需要産業動向	<p>① 5月以降の新規商談は、非常に低調。その傾向は、6月に更に悪化。7月は、更に超閑散の状況。</p> <p>スーパセネコンは、総じて仕事を持っているようだが、中小・地場セネコンにおいては、非常に格差が広がり、二極化の傾向が高まっている。合わせて、流通の二極化も予想される。</p> <p>② メーカーの安値契約の出荷促進もあり、鉄筋加工屋では、実需以上に材料が出荷されている。</p> <p>③ 流通は、価格の上昇もあり、需要環境の悪化もあり、与信管理の厳しさに直面している。</p> <p>④ マンシヨンの販売環境悪化の影響もあり、新興・中小ダイベロッパーの破綻が発生し、ますます厳しい状況</p>	<p>四輪車生産は輸出に牽引され高水準が続いているものの、建築は住宅・非住宅とも低調。しかしながら、鉄鋼内需は5月の普通鋼鋼材用途別受注量が2カ月連続で前年同月比プラスとなり、輸出向け出荷についても11カ月連続の前年比増となるなど、増勢が維持されている。</p>
3. 輸出入動向	<p>①08.5月 ビレット輸出 107,645トン (前年比+74%) *ベトナム急減</p> <p>(内訳 韓国 61,101トン、台湾 30,464トン、ベトナム 6,026トン)</p> <p>異形棒鋼輸出 67,669トン (前年比+103%) *アメリカ向けの増</p> <p>(内訳 韓国 46,401トン、中国 124トン、アメリカ 17,088トン)</p>	<p>海外では、米国経済の停滞感が一層強まる中、各国の中央銀行はインフレ警戒を強めており、消費並びに投資活動の減速が懸念される。</p> <p>海外鉄鋼市場は、新興経済国における旺盛な需要と中国の輸出抑制に加え、原料高による高感から需給タイトな状況が続いており、鋼材市況も続伸している。中国の鋼材輸出は前年割れが続いているが、3月以降は前月比でプラスに転じ、5月には556万トンと9カ月ぶりに500万トン超まで増加した。世界経済は、米国経済の減速と資源インフレによって減速感を強めている。引き続き、世界経済の動向及び中国の生産、輸出の動向に注視が必要である。</p>
4. 海外市場動向	<p>① 鉄筋市況 韓国 中国製品の輸入の動きもあり、市況的には一服感が出ている。</p> <p>② ビレット 台湾向け；相当量のビレットが備蓄されており、足元の市況は大きく軟化傾向。</p> <p>ベトナムのビレットも、輸出に回っているというぐらいい、弱含み。</p> <p>*調整局面がどの時点で、収束するのか、気になるところである。</p> <p>①東京製鐵 スクラップ(特級)購入価格(公表値) 7月15日 岡山 陸 72,000円</p> <p>宇都宮 71,500円</p> <p>②スクラップの天井感の見方も出てきた。</p>	<p>経済産業省は第2四半期の粗鋼需要量を、製造業を中心に需要は堅調であるとして、前年同期比2.2%増となる3,056万トンと発表した。また、5月末の普通鋼鋼材国内在庫は前月末比12万トン増の535万トンとなり、2カ月連続の増加となった。</p>
5. トピックス		